

公益財団法人

太宰府メモリアルパーク

太宰府メモリアルパークは、昭和63年に太宰府市の南西部、天拝山北麓に開園した歴史と自然の公園墓地です。整備された園内は1年を通して、四季折々の花を楽しめる場所として一般開放しており、墓所を訪れる人だけでなく、遠足で来た子どもたちや一般利用者にも、くつろげるスペースとして利用されています。

展望台は、歴史のまち「太宰府」と、アジアの玄関都市「福岡」を同時に見渡せる絶好の場所であり、多くの人々が訪れ、より多くの物語が語られる場所となるよう環境整備していきます。



園内の植栽活動

<活動内容>

- 眺望に関わる周辺環境の保全
 - ・展望台の一般開放
 - ・展望台としての整備、万葉歌碑の保全
 - ・展望台からの眺望写真パネルの公開
 - ・しゃくなげ参道の整備と環境管理
 - ・園内の植栽管理
- 太宰府の歴史・文化に関する社会貢献活動
 - ・8月15日「送り火」における夜間開放
 - ・園内の万葉歌碑の保全とPR活動
 - ・万葉歌碑見学会の実施
 - ・万葉歌碑関連の文化団体との連携
 - ・来園者へのPRパンフレットの配布

開放時間：年中無休
 10月～5月 開門午前8時、閉門午後6時
 6月～9月 開門午前8時、閉門午後7時

太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・コト(文化遺産)。これを将来に伝えたいと思う物語と、それを守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。



太宰府市民遺産
ロゴマーク

太宰府市景観・市民遺産会議ホームページ
<http://市民遺産.jp>

太宰府悠久の丘 ～メモリアルパークからの眺望～

太宰府市民遺産：第12号
 認定：平成28年3月13日
 景観・市民遺産育成団体：公益財団法人 太宰府メモリアルパーク
 発行：太宰府市景観・市民遺産会議
 (公財)古都大宰府保存協会
 発行日：平成28年7月16日



平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)



太宰府市民遺産

第12号

太宰府悠久の丘 ～メモリアルパークからの眺望～



公益財団法人
 太宰府メモリアルパーク

メモリアルパークからの眺望

太宰府メモリアルパークには2つの展望台があります。そこからは太宰府から福岡都市圏、そして遠く博多湾まで見渡すことができ、その雄大な景色は、太宰府屈指のものと言えます。

その展望台は、そこに立ち・望む人によって「それぞれの物語」を生み出していく場所です。例えば水城跡、四王寺山、宝満山を通して、白村江での敗戦後の緊迫した状況や古代大宰府の繁栄を思い浮かべる人、太宰府から博多湾までの距離を見て古代・中世と太宰府が大陸との交流拠点として発展した地理的背景を感じる人。そして、飛行機が離発着を繰り返す福岡空港や車が行き交う高速道路、変化し続ける街並みから現代における人々の営みを感じる人。

展望台は、幾多の物語を生み出し、時を超え変化し続ける『悠久』の街の姿を感じる場所です。

夫婦桜展望台

「夫婦桜展望台」は、「夫婦桜」を中心に開けた展望台です。ここは標高180mあり、園内で最も高所に位置するため、海に開けた広大な大地を望め、アジアの玄関口として発展した「福岡」の姿を一望できます。

また、ここからの眺望は、眼前の園内植栽と合わせ四季折々で美しく変化し、春はツツジやバラ、秋から冬には眼下に霧が立ち込める雲海を望むこともできます。



夫婦桜展望台からの眺望



大宰府の丘展望台からの眺望



夫婦桜

「夫婦桜展望台」には、樹齢200年といわれる山桜が立ち、大きな幹が寄り添う姿から「夫婦桜」と呼ばれています。

展望台への道端には、シャクナゲが植えられ、散策する人々を楽しませます。

また、この展望台の奥には天拝山を望む場所も整備されています。



夫婦桜展望台から雲海を望む

大宰府の丘展望台

「大宰府の丘展望台」は、古代の「大宰府」を思い浮かべることができる丘という意味で、大宰府を囲む水城跡・四王寺山・宝満山などを見ることができます。

展望台には、望遠鏡や地図などが整備され、その横には四王寺山や水城跡を背景に大宰府ゆかりの万葉歌碑が7基立ち並びます。

この展望台から望む四王寺山(大野山)は、「大野山 霧立渡る わが嘆く息嘯の風に霧立ちわたる」山上億良(万葉集 卷5・799)と詠まれた当時の姿を彷彿させます。



大宰府の丘展望台



万葉歌碑



「大佐野台団地前」信号から車で5分(2.5km)